

令和6年度1回愛媛県がん診療連携協議会がん相談支援専門部会

Web会議 議事録

令和6年7月27日（木） 12:15～13:45

出席者 (42名)	愛媛県庁健康増進課	田坂	愛媛県立中央病院	濱田、箱岡
	愛媛大学医学部 附属病院	塩見、古川	松山赤十字病院	山本、中岡、中田、門田
	済生会今治病院	松岡、斉藤、西部	市立宇和島病院	大久保、沼田
	市立八幡浜総合病院	高橋	愛媛労災病院	田中
	松山市民病院	三谷、若山	四国中央病院	竹治、高橋
	HITO 病院	楠瀬、北添	十全総合病院	松本
	済生会西条病院	大谷	済生会松山病院	藤原、平岡
	住友別子病院	和田、山地、高橋、山内		
	四国がんセンター	羽藤、長谷部、岸田、福島、大西、関木、篠原、松田、上野、元原、高橋、上野		

I. 報告・協議事項

1. 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会報告

(第22回 5/24 オンライン配信)

福島 美幸 (四国がんセンター)

p.1～p.18

厚生労働省(健康・生活衛生局 がん・疾病対策課 相談支援専門官 戸石 輝様)からの挨拶では、がん診療連携拠点病院等にはBCPを策定することが望ましいとしている。その中で災害時のがん情報提供・相談支援の検討も重要だと考えている。

がん診療連携拠点病院の整備に関する指針(用語の解説)より、BCPは、地震災害、感染症のまん延、テロ等の事件、大事故、サプライチェーン(供給網)の途絶、突発的な経営環境の変化など不測の事態が発生しても、重要な事業を中断させない、または中断しても可能な限り短い期間で復旧させるための方針、体制、手順等を示した計画のこととある。BCPの話題が多く上がった。

情報提供・相談支援部会について、現状では、現場で収集したニーズや提案は、がん診療連携拠点病院連絡協議会(通称:親会)で報告される形となっている。十分に議論され、より有効に意見が反映されるためにはどうしていくとよいか、討論が行われた。

国がんより「災害時のがん患者受け入れ状況に関する情報共有の仕組み」について以下の変更点の

説明があった。①WEB フォームでの情報収集に変更②がん情報サービスの HP 上で「災害関連ページ」を目にとまりやすい場所へ変更③入力タイミング（災害発生から 1 週間後）や目的・用途が記載された。タイミングについても異論は出ず、災害発生から 1 週間後を目安に被災地へ国がんにメールにて入力をお願いする等コンタクトを取っていく等が報告された。

熊本大学病院からは、熊本地震の経験から災害時のがん相談支援センターの役割を考えるとというテーマで、熊本地震発生後のがん相談支援センターの取り組みと、熊本地震を経験した患者・相談員の声をもとに、災害時 BCP とがん相談支援センターの役割についてお話があった。熊本地震発生後、市内の 9 病院は、停電 6 施設、水供給停止 8 施設、都市ガス停止 7 施設であった。また、すべての施設が建物破損あり。2 施設は損壊がひどく入院患者は転院、熊本大学病院もバスやヘリで入院の受け入れを行った。実際のがん専門相談員の勤務も、発生 3 日間は、負傷者の対応が優先で現場対応をしていた。4.5 日目辺りから、治療や入院がどこでできるのかといった問い合わせがあるが、現場で対応しているがん専門相談員に情報が届いていないのが現状であった。情報発信では、正確な情報を正確な機関から出し続けることが情報の混乱を避けるために必要であり、患者・家族・医療者・行政・マスコミなど同じ情報を共有することが大切である。そのために、国立がん研究センター「熊本地震に関する情報」にリンク先を統一した。さらに、経験を活かし、災害の備えを考える取り組みをサロンで実施し、地域へ発信した。改めて災害に備えたがん相談支援センターの役割は①平常時の相談から災害を意識した関わりを行う②院内や県内のがんに関する情報収集・発信の確認、災害に備えた訓練を行う③熊本県は行政・部会・がん連携サポートセンター、サロンネットワークと関係構築ができていることを強みに、外部との災害時に協働できる働きかけを行う④地域、院内のイベントで災害の備えを考える機会を設ける⑤自分たちも被災者になることを忘れない。ということを考えられたと報告された。

2. 「若年がん患者在宅療養支援事業」「ウィッグ及び胸部補正具購入費助成事業」、「小児・AYA 世代のがん患者の妊孕性温存療法研究促進事業」等の県内動向について

田坂 慎太郎（愛媛県健康増進課）

p. 36～ p. 44

愛媛県がん対策推進計画への予算対応状況一覧に沿って報告された。

○患者サロン事業(町なかサロン運営補助)やがん患者の就労も含めた相談支援事業はおれんじの会へ委託されている

○若年がん患者在宅療養支援事業の実施について

今年度はリーフレットを訪問介護、訪問入浴介護サービスを提供している県内 460 事業所に送付し、事業の更なる周知を図った。

事業費は県(50%)、市町(50%)で負担

令和 4 年度から全市町で実施

○小児・AYA 世代 のがん患者の妊孕性温存療法研究促進事業

適応となる病院は、愛媛大学付属病院と矢野産婦人科。

令和 4 年度から実施し、同年度の補助実績は 11 件。令和 5 年度は 7 件。

○ウィッグ及び胸部補正具購入費助成事業

県内 8 市町で実施（松山市、八幡浜市、上島町、鬼北町、今治市、宇和島市、西条市、四国中央市）

今年度から第4期計画がスタートしている。計画策定の趣旨として、がん患者等に対する社会的支援の充実等の新たな課題にも対応しつつ、引き続き、予防・医療・共生を柱とした総合的ながん対策に県民総ぐるみで取り組み、「がんになっても安心して暮らせる地域社会」の実現を目指す。

前回からの主な変更点として、新たにロジックモデルを作成し、PDCAサイクルの実効性の確保につなげていくこととしているほか、愛媛県独自の取り組みとして次の4項目を盛り込んだ。

1. 在宅緩和ケア推進モデル事業の効果検証と県内全域への普及
 2. がん登録を活用した研究の促進(地域課題の把握と対策の立案)
 3. がん患者の就労継続に向けた支援の充実
 4. 高校生が療養中も切れ目なく教育を受けられる環境の整備
- 特に3、4については相談支援センターも取り組む関連事項となる。

3の就労支援については、愛媛県では、現在、事業を委託しているNPO法人愛媛がんサポートおれんじの会が運営する町なかサロンにおいて、キャリアコンサルタントによる就労相談を実施、拠点病院での出張相談も定期的に行われている。こうした取り組みに加え、県内の企業・事業所に対して、県内経済団体を通じてアンケート調査を実施し、本県におけるがん患者の就労支援の実態の把握や課題の抽出を行うとともに、当該結果に基づき、愛媛県がん対策推進委員会の専門部会である愛媛県がん相談支援推進協議会や愛媛県がん診療連携協議会のがん相談支援専門部会等と連携して、企業・事業所が自由に加工して活用できる就労支援ガイドブックを作成するなど、がん患者の治療と仕事の両立に向けた愛媛県独自の対策を検討していく。今年度はアンケートの実施と課題の抽出までを予定している。

また、4のがんを罹患した高校生が療養中も切れ目なく教育を受けられる環境の整備については、愛媛県では、小中学生の院内学級はあるが、高校生を対象とした院内学級はなく、高校生に対する学習機会の提供が重要な課題の1つ。高校生のがん患者が、教育を受けたいと考えたとき、現状は学校と直接交渉を行わなければならない、大きな負担となっている。「1人1台端末」の整備や文部科学省による療養中の生徒へのオンライン教育の推進など、ICTを活用した学びの保障ができる環境整備が急速に進み、高校生が学習を受けることを希望する場合には、在籍する高等学校の支援のもと、院内や自宅において遠隔で授業を受けることが可能となった。しかし、学習支援に当たっては、就学や復学、受験、進級といった多様な状況への対応に加え、病院との緊密な連携のほか、現場において多くの判断や豊富なノウハウが求められており、教育委員会は、長期入院中の高校生に対する学習指導・支援体制を確立し、組織を挙げて現場を支え、学びの機会の確保に取り組む必要があると指摘がある。全国では、定時制高校との連携や学習支援ロボットの活用などの対策がとられており、単位が取りやすい環境の整備が進んでいるが、他県と比べると愛媛県の取り組みや体制は十分とは言えないのが現状である。

4. 都道府県がん診療連携協議会四国ブロック会より

和田 美恵子（住友別子病院）

p. 50

- ・ 四国 4 県の活動報告
- ・ 地域相談支援フォーラムは「がん診療連携拠点病院などの整備について」に記載された「継続的かつ系統的な研修」のうち、複数県で合同開催している広域研修である。四国ブロックではこのフォーラムを 2018 年度から 2022 年度までに香川、高知・徳島共同、愛媛で開催している。近隣県の交流や連携、単県では解決困難な取り組みを検討できるといった開催の有用性は理解しつつも、開催県は県内の研修や四国ブロックでの研修等と重なることから、かなりの負担が大きい。こうしたことから 2022 年度末に四国ブロック実務代表者会において開催頻度を 4 年 1 回と決め、次回は 2026 年に香川県で開催予定としている。しかし、昨今がん相談支援センターは多様性が求められており、国内の他ブロックでも毎年または隔年開催されている状況を鑑みて、四国ブロックでの学び合う機会を隔年開催とすることを愛媛県の意見として四国ブロック会へ提案したい。→異論なし

5. がんサポートサイトえひめの周知について

羽藤 慎二（四国がんセンター）

p. 51～p. 52

2023 年度アクセス数：約 5 万件(2022 年度の倍以上)

月別のアクセス数では、6 月ピーク。検診要精密検査者への周知で注目度上昇

各病院での取り組みは随時記載内容変更可能となっている

(今後の展開・予定)

- ・ 各施設のデータアンケート実施予定
準備でき次第、相談支援・がん登録各部会 ML にお知らせ&施設代表者に調査票を送付予定
- ・ リンパ浮腫医療資源調査結果をもとに、リンパ浮腫のページを修正予定
近々各施設院長、リンパ浮腫担当責任者あてに上記、文章作成依頼を送付予定
- ・ 希少がんの診療体制について情報を整備することが求められている
比較的症例数や相談の多い、GIST、中皮腫、サルコーマから順次着手予定
- ・ がんサポートサイトえひめ拡大ワーキング、2023 年実施したサイトの改善点等について、各施設担当者をはじめ、施設管理者や関係団体等も含め幅広く意見交換を行う予定

6. 都道府県がん各ワーキングからの報告

1) 相談員研修 WG

福島 美幸（四国がんセンター）

p. 53～56

拠点病院等の相談員は、「対応の質の向上のためにがん相談支援センター相談員研修等により定期的な知識の更新に努めること」と整備指針/指定要件にあるため各施設計画的に参加して欲しい。推進病院の相談員も質向上のために参加して欲しい。

- ・ 開催について（予定）

① 第 1 回愛媛県がん相談員研修会 現地開催のみ

事例検討会～評価表を用いてより良い相談対応について考える～

【日程：2024年9月28日（土）13時00分～15時00分 会場：住友別子病院】

※「認定がん専門相談員制度」におけるⅢ群研修の単位認定申請中
→QA研修で使用している評価表で行う

② 2024年度情報支援研修地域展開版 愛媛開催 ウェブ開催のみ

【2024年11月9日（土）13時00分～17時00分 ホスト会場：四国がんセンター】

※「認定がん専門相談員制度」におけるⅢ群研修の単位認定申請予定

2) 広報活動 WG 大西 明子（四国がんセンター）
p. 57～p. 60

・フィードバック体制意見交換会【2024年7月2日（木）15：00～17：00 オンライン】

今年度各施設で実施した患者アンケート調査の集計結果の報告及び意見交換会の報告があった。

アンケートの実施方法については、相談支援センターの利用者に相談員が配布し、回収箱で回収した施設が多かったが、外来スタッフが相談支援センターを紹介した際にアンケートを渡したり、二次元コードから回答できるようにしたりと配布や回答方法の工夫について共有した。

アンケートの内容については、全体として良い評価が大半だったが、「相談員は相談しやすい雰囲気だったか」に比べ、「問題解決の見通しが立ったか」、「相談して気持ちが楽になったか」は、すべての施設で評価が低くなる傾向がみられた。

次年度実施に向け、今年度秋以降に第2回意見交換会を実施予定。

・広報活動について

5年前まで協議会として参加していた「すごいもの博」は費用負担が増加しているため、今後参加が難しいことをご了承いただきたい。

協議会として参加するような規模の大きなイベントは、費用負担の面から難しい現状があり、各施設で地域での出張相談会の実施をすすめてほしいこと、大きなイベント等で出張相談会が開催となった際は協議会として協力していくことの報告があった。

3) チェックリスト WG 和田 美恵子（住友別子病院）

p. 61

・今年度の活動目標、スケジュール

がん相談支援センター活動のPDCAサイクルを確保し、県内全体のがん相談支援の機能強化と質向上を目指す。

グーグルフォームでの入力・集計のフォームを使用し、各病院で評価する。

昨年提出されたPDCAチェックリスト2023修正案をもとに、愛媛県のチェックリストと統合し、相談員項目および管理者項目を明記したチェックリストを用いて評価する。

承認された入力フォームをメールで8月末までに配信。

各病院でのチェックリスト実施。

提出期限：2024/11/27(木) 17:00 必着

WG で各病院の結果を集計、課題抽出と来年度の活動の検討する。

・新愛媛版チェックリストについて提案

がん施策(整備指針の文言)を軸に構成されたものであり、内容や解釈を補足する文言を追加。

管理者項目…管理者に評価してもらいたいと考えるが、現場で評価したものを管理者(相談支援センターの長または院長)に見直してもらおう形でもよい。

ただ、どういう形で見てもらったのかは課題になる。

→各機関の対応方法について共有したい。

相談員(愛媛)項目…2024年度チェックリストには残している。今年度の実施状況を見ながら来年度以降に削除等について検討したい。

Q. 愛媛版を出したということは、これをこなしていくという考えでいいのか？

できない、ではなく、取り組んでいく必須項目と考えていいのか？

→2015年のがん相談支援センター指標骨子が示され、現状を確認し、評価することで課題を見つけやすくし、改善に向けて取り組んでいる。項目を整理して愛媛版チェックリストを作成しており、継続して評価してきている。

愛媛項目は必須項目ではないため、できた、できていないに捉われるのではなく、相談支援センターの活動(周知・相談の質の担保など)の見える化として考えてもらいたい。

1つの病院だけが頑張るのではなく、各病院で補いながら県内全体でPDCAサイクルをまわしていかなければいけない。達成項目については、具体的な取り組み内容を確認しながらとりまとめて情報共有・発信していきたい。

4) サロン担当者 WG

関木 裕美 (四国がんセンター)

p. 62

- ・サロン担当者意見交換会開催予定【2024年10月21日(月)13時30分～15時00分 Web】
時期が近くなれば、グーグルフォームで出欠確認を行う。
- ・愛媛県ピアサポーター養成研修 今年度予定【令和6年9月29日(日)】
- ・愛媛県より委託を受けおれんじの会で「がん患者のための防災リスト」を作成した。今後、9月以降に拠点病院・推進病院等にも配布を考えているが、よりよい活用方法について部会のみなさまへ相談したいため協力いただきたい

(おれんじの会 松本氏よりコメント代読)

7. 相談員研修、国立がん研究センター認定事業について

福島 美幸 (四国がんセンター)

p. 63

○「認定がん専門相談員」認定事業

一申請時に自己の相談対応のモニタリング実施、地域開催Ⅲ群の相談員研修が必須

県内では7名の認定がん専門相談員がいる。

がん相談教育ネットワーク事業(CCTNP)の中で2024年に実施予定の研修があるが、

現時点では、愛媛県（県単位）としての申し込みは難しいとの判断のため、個人で申し込み
いただきたい。

II. その他

1. 2024年度愛媛県災害時連絡シミュレーション実施について 羽藤 慎二（四国がんセンター）
p. 28～p. 33

- ・シミュレーション実施日について【8/19（月）～21（水）】提案
施設が松山市：被災地、他市町：周辺地域

国がん作成の入力フォームでは、修正、上書きができる。

当県では年に1回シミュレーションを行っているが、今回国がん作成の災害時病院情報入力
フォームのシミュレーション使用について、国がんを確認し、フォーム使用許可を得ている。
この入力フォームは原則拠点病院を対象としているが、推進病院も参加可能と了承を得てい
るため、今年度のシミュレーションをこの国がん災害対応入力フォームを活用して実施する
ことの提案がされた。→異論なく、国がんと日程調整を行い実施する方向で調整することとな
る。

2. その他（各施設から周知事項） (各施設)
p. 65

- ・希少がん GIST（消化管間質腫瘍）セミナー in 四国 8/31（土）13時30分～15時30分
ハイブリッド開催 会場：四国がんセンター 暖だん
⇒医療者、患者様、患者様のご家族へ案内をお願いします。

3. 災害発生時の部会活動中止・延期に関する取り決めについて（毎年周知）
周知された p. 66

4. 次回専門部会開催予定について

- ・全体報告会（決定）令和7年2月15日（土）午前中ウェブ開催
- ・専門部会（提案）候補日令和7年1月23日（木）、1月30日（木）13時30分～15時00分
※年内に日程調整をMLで行う予定

議事録担当：HITO 病院（次回は十全総合病院）